

足立区議会 自由民主党

討論者



のぶゆき
高山 委員

平成28年度予算は「未来へ。確かな道すじを」と銘打ち、区のボトルネック的課題への取り組みを進化・充実し、厳しい財政状況下でも、子どもの貧困対策や区内初の大学病院誘致等を着実に進める区長の強い思いが込められた予算であった。

平成28年度決算では、経常収支比率が3年連続で80%を下回り、76.5%、実質収支額74億円余と、前年度から引き続き、適正な水準の範囲内を推移している。

しかし、自主財源の根拠たるべき区税収入は、前年度に比べ1.6%の増額となったが、自主財源の安定的な確保という点では、引き続き厳しい状況にある。財政指標は改善しているものの、内容は厳しいものと受け止めざるを得ない状況であり、自主財源の安定的な確保に向けて積極的にまい進し、

より効率的・効果的な行財政運営を全庁挙げて取り組んでいかれるよう要望する。

また、本委員会において指摘があった、

本会議質問における執行機関の答弁についてであるが、我々議員は法律や行政用語への認識・理解はあるものの、一般区民、ケーブルテレビにて本会議中継をご覧になっている視聴者からは、難しくわかりづらい言葉・用語が多く、内容が理解できないという声をいただいている。区の施策や事業の現状と今後の方針、進むべき方向性など区政全般にわたってご理解いただく絶好の機会であり、協働・協創を進めるためにも、今後はわかりやすい答弁に努めるよう強く要望する。

最後に、今後とも、更に魅力あふれる足立区を築き上げていただけることを期待するとともに、次年度の予算編成に当たっては、我が党委員の指摘した様々な提案及び要望事項を尊重し、その実現に向けて努力されるよう要望する。

足立区議会 公明党

討論者



たかし
岡安 委員

平成28年度予算は「足立区第二次重点プロジェクト推進戦略」で進めてきた様々な施策や事業に著実な成果を上げることが目指し、「子ども」「くらし」「まちづくり」

「経営改革」の4つの柱の施策をさらに進化・充実させるため、「子ども」分野は、

未来へつなぐあだちプロジェクトの本格スタート、聞かせて子育て訪問事業の推進、母子保健コーディネーターの配置、居場所を兼ねた学習支援の場の増設、中学1年生「英語チャレンジ講座」、償還免除型育英資金貸付事業の推進、「くらし」分野は、糖尿病対策アクションプランに基づく施策の推進、若年者就労支援、街の美化・防犯活動の充実、健康寿命延伸のための介護予防事業の推進、「まちづくり」分野では災害に強いまちづくり、区営住宅の改修、鉄

道立体化の促進、「経営改革」は自主財源確保のための各種収納金の収納率向上対策や魅力ある誇れる足立区を創るシティブロモーション事業の推進など、いずれの分野においても我が党の要望が多く反映された区民生活に欠かせない事業となった。

今後ともますます多様化する区民ニーズに対し、事業のコラボや深化など、努力と工夫で柔軟に対応しサービスの質を落とさないよう事業展開していただきたい。

我が党委員から指摘・要望した防災減災対策、防犯カメラ設置と運用、防火シャッターの安全対策、省エネ製品購入補助金の充実、雨水利用の推進、期日前を含む投票所増設、地域図書館や学校図書館の活用、フードバンク推進、女性の健康対策、高齢者施策の充実、介護士の処遇改善、不登校対策、教員の働き方改革等を重く受け止めていたとき、区民目線・区民感覚に立脚した区政運営にまい進されるよう要望する。

特別 決算 委員会の 討論(要旨)

| 区分 | 会派名 | | | |
|-------------|----------------|--------------|----------------|--------------|
| | 足立区議会 自由民主党 | 足立区議会 公明党 | 日本共産党 足立区議団 | 足立区議会 民進党 |
| 一般会計 | 認定 | 認定 | 不認定 | 認定 |
| 国民健康保険特別会計 | 認定 | 認定 | 不認定 | 認定 |
| 介護保険特別会計 | 認定 | 認定 | 不認定 | 認定 |
| 後期高齢者医療特別会計 | 認定 | 認定 | 認定 | 認定 |

決算特別委員会委員(21名)

- 古性重則 委員長
- 小泉ひろし 副委員長
- 西原えみ子 委員
- 長興祐 委員
- 鹿浜昭 委員
- 高山のぶゆき 委員
- 渡辺ひであき 委員
- 吉岡茂 委員
- 新井ひでお 委員
- 白石正輝 委員
- さの智恵子 委員
- 吉田こうじ 委員
- 岡安たかし 委員
- 前野和隆 委員
- 浅野けい子 委員
- ぬが和子 委員
- 米山やすし 委員
- 鈴木あきら 委員
- 土屋おさと 委員
- 市川委員



日本共産党 足立区議団

討論者



けい子
浅子 委員

区は当初予算で財政の厳しさを強調し、低所得者の保育料は23区で一番高く、高齢者の介護保険料も23区で2番目に高いなど、区民には負担を押し付け、他区に比べ低い行政水準で我慢を押し付けてきた。

しかし、普通調整交付金は見込みを100億円以上多く算入された結果、基金総額は1千395億円余、前年度比66億円余と23区トップクラスの積立金額である。

こうした基金残高の急増が、地方交付税削減や法人住民税国税化の議論につながり、極端なため込みの姿勢が区の財源を奪う事態になっていることが明らかになった。

その一方、千住一丁目再開発事業では、民間主導の30階建てマンション建設に総額40億円、本決算では、9億6千200万円の税金が投入された。

また、江北・高野小学校統廃合のため、わざわざ新たに用地を購入しようとする税金の使い方は納得を得られないものではない。今決算で現れたのは、ため込んだ基金も、財産総額も、史上空前。区民には行政水準を低く抑え、負担増も強いて、一方特定事業者を利するような再開発には税金投入。人件費を抑えた分の何倍も外部委託などの費用を増やす。このお金の使い方は、到底認められない。

国民健康保険特別会計は、16年連続の値上げ。均等割りが1千500円値上げで、一人当たりの平均保険料の引き上げ額は4千644円、この数年間で最大の値上げである。

また、介護保険特別会計は、わが党指摘のとおり、第6期介護保険料は低く抑えることができたことが明らかになった。給付も3割の負担増は認めるわけにはいかない。

区民の過重な負担軽減、福祉向上のため、地方自治の本旨にのっとり施策の優先度を改め、行政責任を果たすよう強く求める。

足立区議会 民進党

討論者



あきら
鈴木 委員

平成28年度決算において、未来へつなぐあだちプロジェクトを基に、生まれる前から乳幼児・学齢期と、早め・丁寧・切れ目のないアプローチを行い、貧困の連鎖を断つための様々な取り組みについて評価する。

また、ハード面では竹ノ塚駅付近の鉄道立体化促進事業、6つ目の大学や区内初の

大学病院の進出、ソフト面では学力向上のための施策や健康あだち21推進事業など高く評価する。

一方、各種収納金の収納率のひどさ、今年も特別区民税・国民健康保険料の23区ワースト脱却ができなかったことを反省すべきである。特別区民税・国民健康保険料を22位の収納率と肩を並べるだけで9億7千万円、23区平均の収納率を確保出来たら38億8千万円もの増収が図れること、また四

会計合計の不納欠損額が36億5千万円にもなったことは区職員全員が認識すべき問題である。特に、特別区民税滞納整理分の内5億8千800万円にもなる完全に徴収できない分を不納欠損額と帳簿処理したものを実績として捉えているなど、感覚を改めるべきである。在宅医療・介護連携の準備不足及び危機感の無さについても強く指摘する。

今回、我が会派が指摘・提案した、居宅訪問型保育・企業主導型保育への取り組み、帰宅困難者対策と公園のあり方、公民連携の手法による街づくり、刑法犯ワースト回避への努力、地域包括ケアシステムの充実、不法投棄や危険箇所等をスマホアプリで投稿してもらう区民参加、地下鉄8号線整備促進に向けた課題解決、都立中川公園への区の主体的関与、健康遊具増設、各避難所敷地内へのマンホールトイレの早期整備、学校給食費の公会計化など、今後の区政運営や来年度予算編成に対し反映するよう求め、討論とする。